

1 研究主題

表したい思いであふれ、造形的な視点を豊かに働かせることができる授業をつくろう～表現と鑑賞との一体化を図った学習過程の工夫～

2 主題設定の理由

学習指導要領が完全実施され、「何のために学ぶのか」という教育の本質に迫りつつ、さらに「生きる力」を育てていくことが大事となる。令和3年1月には、中央教育審議会から『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～の答申が出された。また、近年、若手教職員の割合が増え、世代交代が進んでいる。長年培ってきた職種独自の「専門性」や「スキル」などを共有し、伝授していく必要がある。そのため、「浜松市教育研究会」では、年3回の教科研修の場を「共有」「伝授」の場と考え、教職員側の視点に立ち、基本テーマを「愛情と情熱を持って学び続け 子供たちの道しるべになろう」とした。

従って、図画工作科研究部においても、教職員側の視点で研究主題を設定した。前年度までの研究を継続しつつ、学習指導要領で求める資質・能力を育成し、子供たちの「表したい思いであふれる」授業が生まれ、また、多くの先生方が「図画工作科を指導することが楽しい」と感じることができる研究を進めていきたい。

3 研究構想図

浜松市教育研究会テーマ 愛情と情熱を持って学び続け 子供たちの道しるべになろう

第3次浜松市教育総合計画「はままつ人づくり未来プラン」
 <目指す教師像> ○ キャリアステージでの専門性と指導力を追求する教職員
 ○ 愛情と情熱を持ち続ける教職員

